

愛知県ユニセフ協会設立趣意書

ユニセフ（国際連合児童基金）は、第二次世界大戦により厳しい生活を強いられていた子どもたちへの緊急支援を行うため、1946年に創設されました。子どもの生存・発達・保護・参加の基本的な人権を定めた「児童の権利に関する条約」の精神に基づき、現在は、戦争で被災した子どもに限らず、190以上の国と地域で水、栄養、教育、保健、衛生、保護などの支援活動を通して、子どもたちの命と健やかな成長を支えています。

しかし、世界では今も年間500万人以上の子どもたちが5歳の誕生日を迎えられずに命を落とし、さらにはコロナ禍や気候変動の被害に加え、武力紛争による経済不況や食糧不安にも巻き込まれるなど、栄養危機にさらされる子どもたちが増加しています。

ユニセフの活動は、国連から財政的支援を受けることなく、募金と各国政府による任意の拠出金により行われています。1955年に財団法人として設立された日本ユニセフ協会は、1977年には日本におけるユニセフを代表する国内委員会として正式に承認されました。国際社会において日本が果たす人道的役割に対する期待は非常に高く、日本におけるユニセフ協力活動をひろげていくことは私たちの責務でもあります。

「愛知県ユニセフ協会」は、全国で27番目の協定地域組織としてこの度誕生します。愛知県では、これまで多くの市民や団体・学校・企業などがそれぞれの地域で募金活動や普及・啓発活動などユニセフへの協力・支援活動をすすめてきました。協会設立呼びかけの中心母体となったコープあいちでも2018年に『SDGs行動宣言』を行い、誰も取り残さないという共通理念のもと、安心してらせる持続可能な社会の実現に向けて様々な事業や活動をすすめています。

「愛知県ユニセフ協会」を設立することにより、公益財団法人日本ユニセフ協会と協力協定を結び密接な連携を取りながら、県下のユニセフ活動をさらに前進させていきます。

「愛知」の名前は平安時代の歌集「万葉集」に詠まれている「年魚市潟（あゆちがた）」に由来するといわれています。愛知県の豊かな自然と古くから「ものづくり」がさかんな地域性を生かし、人とひととの触れ合いを大切にする中で子どもたちの感性とたくましく生きる力を育てます。1994年に制定された『あいち県民福祉憲章』にも“明日を担う子どもたちが健やかに育つ社会をつくります”とあります。私たちはこの憲章を大切に、互いに尊重し合う中でここ愛知の地において、多くの県民と一緒にユニセフの支援活動を広め、世界の子どもたちの命と健やかな成長を願い、愛知県にユニセフの拠点を築きます。